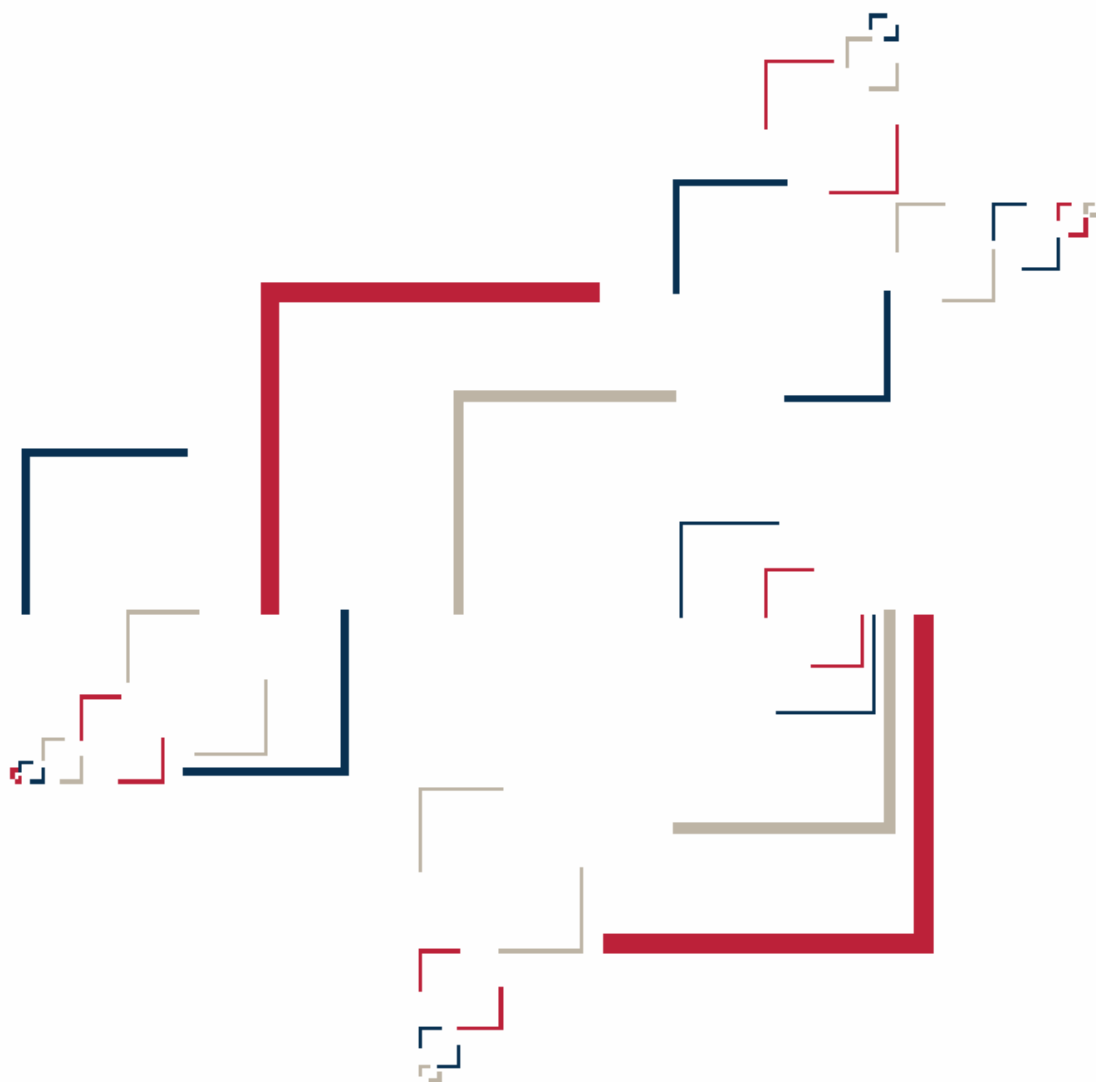




Micro Focus[®]

Enterprise Analyzer[™]

ENTERPRISE ANALYZER のインストール



Copyright © 2012 Micro Focus (IP) Ltd. All rights reserved.

Micro Focus (IP) Ltd. has made every effort to ensure that this book is correct and accurate, but reserves the right to make changes without notice at its sole discretion at any time. The software described in this document is supplied under a license and may be used or copied only in accordance with the terms of such license, and in particular any warranty of fitness of Micro Focus software products for any particular purpose is expressly excluded and in no event will Micro Focus be liable for any consequential loss.

Micro Focus, the Micro Focus Logo, Micro Focus Server, Micro Focus Studio, Net Express, Net Express Academic Edition, Net Express Personal Edition, Server Express, Mainframe Express, Animator, Application Server, AppMaster Builder, APS, Data Express, Enterprise Server, Enterprise View, EnterpriseLink, Object COBOL Developer Suite, Revolve, Revolve Enterprise Edition, SOA Express, Unlocking the Value of Legacy, and XDB are trademarks or registered trademarks of Micro Focus (IP) Limited in the United Kingdom, the United States and other countries.

IBM®, CICS® and RACF® are registered trademarks, and IMS™ is a trademark, of International Business Machines Corporation.

Copyrights for third party software used in the product:

- The YGrep Search Engine is Copyright (c) 1992-2004 Yves Roumazielles
- Apache web site
(<http://www.microfocus.com/docs/links.asp?mfe=apache>)
- Eclipse (<http://www.microfocus.com/docs/links.asp?nx=eclp>)
- Cyrus SASL license
- Open LDAP license

All other trademarks are the property of their respective owners.

No part of this publication, with the exception of the software product user documentation contained on a CD-ROM, may be copied, photocopied, reproduced, transmitted, transcribed, or reduced to any electronic medium or machine-readable form without prior written consent of Micro Focus (IP) Ltd. Contact your Micro Focus representative if you require access to the modified Apache Software Foundation source files.

Licensees may duplicate the software product user documentation contained on a CD-ROM, but only to the extent necessary to support the users authorized access to the software under the license agreement. Any reproduction of the documentation, regardless of whether the documentation is reproduced in whole or in part, must be accompanied by this copyright statement in its entirety, without modification.

U.S. GOVERNMENT RESTRICTED RIGHTS. It is acknowledged that the Software and the Documentation were developed at private expense, that no part is in the public domain, and that the Software and Documentation are Commercial Computer Software provided with RESTRICTED RIGHTS under Federal Acquisition Regulations and agency supplements to them. Use, duplication or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions as set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of The Rights in Technical Data and Computer Software clause at DFAR 252.227-7013 et. seq. or subparagraphs (c)(1) and (2) of the Commercial Computer Software Restricted Rights at FAR 52.227-19, as applicable. Contractor is Micro Focus (IP) Ltd, 9420 Key West Avenue, Rockville, Maryland 20850. Rights are reserved under copyright laws of the United States with respect to unpublished portions of the Software.

1

概説

この資料では、レガシー・アプリケーションの分析、マイニング、および再設計するための一連のソフトウェア製品である **ENTERPRISE ANALYZER** をインストールして構成する方法について説明します。**ENTERPRISE ANALYZER** は、アプリケーション・リポジトリ(アプリケーションにおけるオブジェクトを記述し、そのオブジェクト同士がどのように相互作用するのかを記述するアプリケーション・リポジトリ)のデータベースにアクセスできるマルチユーザー環境でデプロイされます。リポジトリのセットアップはマスター・ユーザーが行います。これにより、チーム・メンバーは自分の作業に自分の裁量で集中できるようになります。

ENTERPRISE ANALYZER インストール済み環境は、以下のコンポーネントで構成されます。

- **ENTERPRISE ANALYZER** サーバーは、**ENTERPRISE ANALYZER** ワークスペース・ファイルおよび関連サポート・ファイルをホストします。
- **ENTERPRISE ANALYZER** クライアントは、サーバー上のワークスペースに接続するために使用されるリンク・ファイルをホストします。
- あるサイトでは、マスター・ユーザーのみがワークスペース・ソース・ファイルに **Windows** からアクセスできるようにしますが、**ENTERPRISE ANALYZER** 上では通常の利用者もソース・ファイルを使用できるようにする必要があります。 **ENTERPRISE ANALYZER** ファイル・サーバーは、このようなサイト用のオプション製品です。ワークスペース・フォルダーの特権が正しくセットアップされていれば、通常の利用者は、**ENTERPRISE ANALYZER** 上でソースを表示したり分析したりできますが、それ以外の目的ではそのソースにアクセスできません。

この資料では、データベース・クライアントがまだインストールされていないサイトに対して、リポジトリへの接続に使用されるデータベース・クライアントをインストールして構成する方法についても説明します。データベース・クライアントは、必ずワークベンチ・クライアントまたはワークベンチ・サーバーのインストール先にインストールする必要があります。

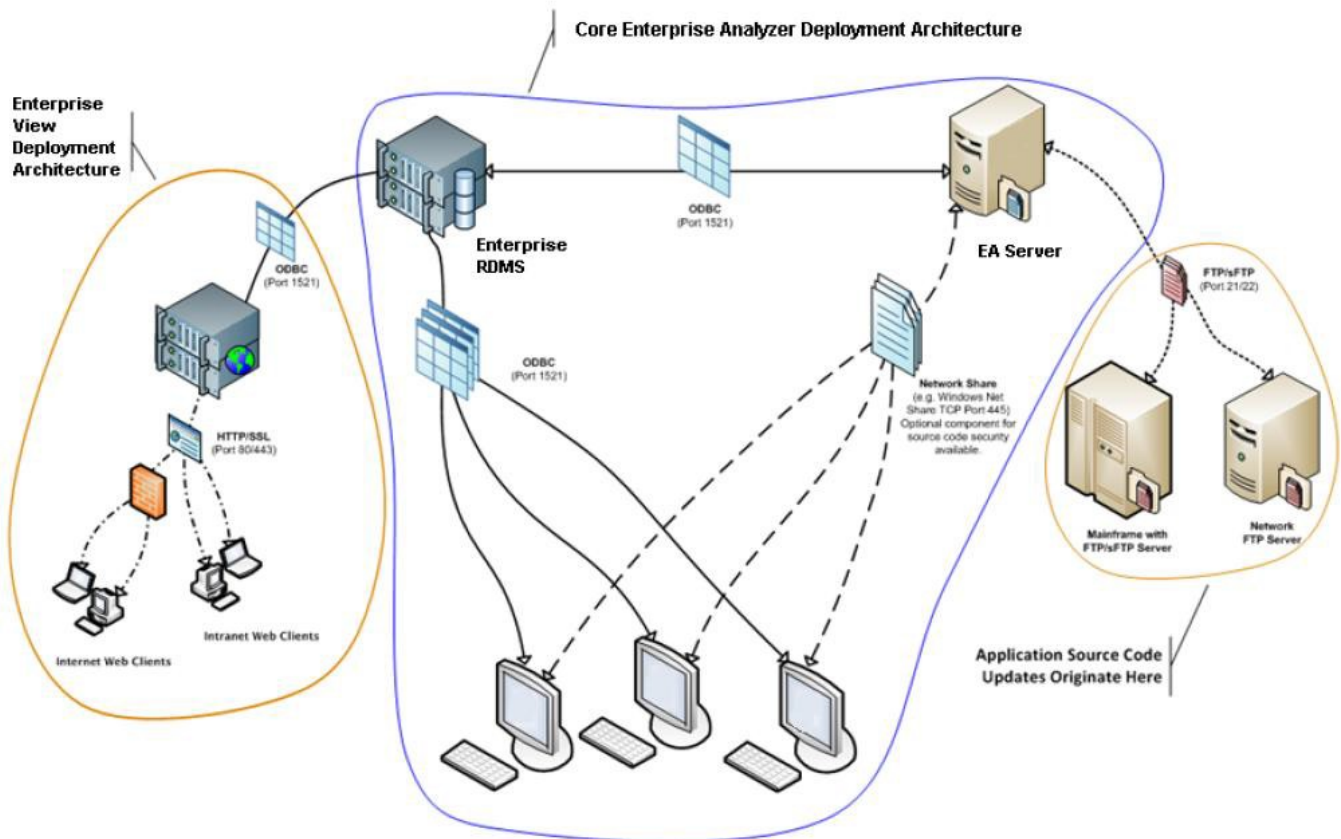
インストール作業

ENTERPRISE ANALYZER のインストールに関する作業、およびその作業の実行順序について以下の表で説明します。

作業	順序	注記
データベース・クライアントのインストール	1	Enterprise Analyzer は SQL Server Express を自動的にインストールします。10Gb 以下のリポジトリの場合はこれを使います。それ以外の Oracle、DB2 などを使用する場合には事前にクライアントソフトウェアをインストールする必要があります。
サーバーへの ENTERPRISE ANALYZER のインストール	2	
サーバーへの Java アドオンのインストール	3	オプションです。
ファイル・サーバーのインストール	4	オプションです。
クライアントへの ENTERPRISE ANALYZER のインストール	5	
ファイル・サーバー・クライアントのインストール	6	オプションです。

デプロイメント

ENTERPRISE ANALYZER の標準デプロイメント・シナリオを以下の図に示します。青の投げ縄内のノードは、製品を意味しています。それぞれのマシンが実行する役割と、その主要な関係については、以下のセクションで説明します。



メインフレームおよびネットワーク・サーバー

メインフレームは、ENTERPRISE ANALYZER でモデル化されるアプリケーションをホストします。アプリケーション・ソース・ファイルは、FTP または SFTP を使用してメインフレーム (および、必要に応じて ネットワーク・サーバー) から ENTERPRISE ANALYZER サーバーにダウンロードされます。

リポジトリ・サーバー

リポジトリ・サーバーは、1 つ以上の マルチユーザー・リポジトリ (ENTERPRISE ANALYZER ワークスペースごとに 1 つのリポジトリ) の データベースをホストします。

注 : データベースは、お客様が所有するデータベースを想定しています。データベースはこの製品に付属していません。

このサーバーには、解析データと分析出力のためのネットワーク・アクセス可能な集中型ストレージが備わっています。ENTERPRISE ANALYZER のサーバー・マシンとクライアント・マシンは、ODBC を使用してリポジトリ・サーバーにアクセスします。

ENTERPRISE ANALYZER サーバー

ENTERPRISE ANALYZER サーバーは、ワークスペース、ワークスペース・サポート・ファイル (ワークスペースのロード時にワークベンチによって作成されるアプリケーション・ソース・ファイルのコピーを含む)、およびワークスペース出力をホストします。このサーバーは、複数のプロセスを利用してオンライン・モードまたはバッチ・モードでの解析パフォーマンスを向上させます。

解析データは、ODBC を使用してリポジトリ・サーバーに送信されます。一部の分析出力は、ワークベンチ・サーバーにも保管されます。

注 : ENTERPRISE ANALYZER サーバーは、ENTERPRISE ANALYZER リポジトリと 同じマシンに共存させることはできません。

ENTERPRISE ANALYZER クライアント

ENTERPRISE ANALYZER クライアントは、チーム・メンバーがワークベンチ・サーバー 上のワークスペースに 接続するときに使用するリンク・ファイルをホストします。このクライアントは、ODBC を使用して、リポジトリ・サーバーに保管されているリポジトリ・データにアクセスします。

データベース・セットアップ

DB/2 または Oracle を使用する場合、DBA は、あなたが作成しようとしているリポジトリごとに 1 つのスキーマをセットアップする必要があります。リポジトリにアクセスするワークベンチ・ユーザーはいずれも、リポジトリに対して適切なアクセス権を持つデータベース・ユーザーの資格情報を指定する必要があります。

Microsoft SQL Server を使用する場合、DBA は、あなたが作成しようとしているリポジトリごとに 1 つの SQL Server データベースをセットアップする必要があります。リポジトリにアクセスするワークベンチ・ユーザーは、通常は Windows 認証を使用します。

DB/2 ユーザー特権

ご使用のサイトで DB/2 データベースが使用されている場合は、あなたが作成しようとしているリポジトリごとに、担当の DBA がデータベース・スキーマをセットアップする必要があります。ENTERPRISE ANALYZER EE に付属のスク립トを使用して、DB/2 のデータベースと表スペース、および必要なスキーマを作成します。このスク립トは、ENTERPRISE ANALYZER EE インストール・ディレクトリーの「DB2 Scripts」フォルダーにあります。

データベースおよび表スペースの作成

ENTERPRISE ANALYZER EE に付属の以下のスク립トを実行して、DB/2 のデータベースと表スペースを作成します。

- 1) crtEnterprise Analyzerdb.cmd をダブルクリックして、データベースを作成します。
- 2) エディターで crtblspace.cmd を開きます。
[ADMINISTRATOR_USER_NAME] および [PASSWORD] を、データベースの管理特権を持つユーザーのユーザー名とパスワードで置き換えます。ファイルを保存して閉じます。
- 3) crtblspace.bat をダブルクリックして表スペースを作成します。必要に応じて、データベース (Enterprise

Analyzerdbrtwdb)、バッファ・プール (Enterprise Analyzerbp)、および表スペース (Enterprise Analyzertblsp) の名前を変更できます。名前を変更するときは必ず、その名前を参照するすべてのスク립トで変更してください。

注: 表スペースのページ・サイズは32Kでなければなりません。パフォーマンス上の理由から、データベース索引の保管に使用する表スペースを別に指定することをお勧めします。ユーザーは、**ENTERPRISE ANALYZER** ワークスペースを作成するときに 両方の表スペースを指定します。ワークスペースの作成方法については、ワークベンチ資料セットにある「始めに」を参照してください。

スキーマの作成

作成しようとしているリポジトリごとに1つのDB/2 スキーマをセットアップします。**ENTERPRISE ANALYZER EE** に付属の以下のスクリプトを実行して、スキーマを作成します。

- 1) エディターで `crtschema.cmd` を開きます。
[ADMINISTRATOR_USER_NAME] および [PASSWORD] を、データベースの管理特権を持つユーザーのユーザー名とパスワードで置き換えます。[SCHEMA_NAME] が使用されている各個所をスキーマの名前で置き換え、[USER_NAME] が使用されている各個所をデータベース・ユーザー名で置き換えます。ファイルを保存して閉じます。
- 2) `crtschema.bat` をダブルクリックして、スキーマを作成します。作成する必要があるスキーマごとに、上記のステップを繰り返します。

リポジトリにアクセスするワークベンチ・ユーザーはいずれも、スキーマに対して適切なアクセス権を持つデータベース・ユーザーの資格情報を指定する必要があります。通常、これは Windows ドメイン・ユーザーの資格情報です。必要な特権を以下の表に示します。

タイプ	特権
データベース特権	BINDADD
	CREATETAB
	CONNECT
	IMPLICIT_SCHEMA
スキーマ特権	CREATEIN
	DROPIN
	ALTERIN
表スペース特権	USE OF

Oracle ユーザー特権

ご使用のサイトで Oracle データベースが使用されている場合は、あなたが作成しようとしているリポジトリごとに、担当の DBA がデータベース・スキーマをセットアップする必要があります。リポジトリにアクセスするワークベンチ・ユーザーはいずれも、スキーマに対して適切なアクセス権を持つデータベース・ユーザーの名前とパスワードを指定する必要があります。必要な特権を以下の表に示します。

タイプ	特権
役割	GATHER_SYSTEM_STATISTICS (「データベース統計の計算」メソッドに関してのみ必要です。ワークベンチ資料セットにある「始めに (Getting Started)」を参照してください。)
システム特権	ALTER SESSION CREATE SESSION CREATE TRIGGER CREATE SEQUENCE CREATE SESSION CREATE SYNONYM CREATE VIEW ALTER SESSION QUERY REWRITE
オブジェクト特権	SELECT on SYS.V_\$INSTANCE SELECT on SYS.V_\$SESSION SELECT on SYS.V_\$PARAMETER

SQL Server データベースのセットアップ

Microsoft SQL Server を使用する場合、DBA は、あなたが作成しようとしているリポジトリごとに 1 つの SQL Server データベースをセットアップする必要があります。以下の手順に従ってください：

注：以下に述べるセットアップ手順は SQL Server データベースの作成に Microsoft SQL Server Management Studio Express を使用し、サーバーへのアクセスには Windows 認証を使用することが前提となっています。SQL Server の認証に関する詳細は SQL Server のマニュアルを参照してください。

- 1) [スタート] > [すべてのプログラム] > [Microsoft SQL Server 2005] > [Configuration Tools] > [SQL Server Management Studio Express] を選択します。
- 2) [サーバーへの接続] 画面で表示されたデフォルト設定を必要に応じて変更し、[接続] ボタンをクリックします。SQL

Server Management Studio Express のウィンドウが開きます。

- 3) オブジェクトエクスプローラのペインで [データベース] を右クリックし、[新しいデータベース...] を選択します。
[新しいデータベース] ウィンドウが開きます。
- 4) [全般] ページを開きます。データベース名としてリポジトリの名称を入力し、必要に応じて設定値を変更し [OK] を入力します。オブジェクトエクスプローラのペインに新たなデータベースが追加表示されます。

注 : データベースの属性設定値の詳細は SQL Server のマニュアルを参照してください。

2

ハードウェア要件およびソフトウェア要件

以下のセクションでは、ENTERPRISE ANALYZER をインストールする場合のハードウェア、ディスク・スペース、オペレーティング・システム、およびソフトウェアの要件について説明します。

注：データベース・クライアントのハードウェア要件は、ワークベンチ・クライアントおよびワークベンチ・サーバーのテーブルに示されます。データベース・クライアントのソフトウェア要件は、ワークベンチ・クライアントおよびワークベンチ・サーバーのソフトウェア要件と同じです。ファイル・サーバーのハードウェア要件およびソフトウェア要件は、ワークベンチ・クライアントおよびワークベンチ・サーバーのハードウェア要件と同じです。

リポジトリ・サーバー・ハードウェア要件

リポジトリ・サーバーのハード・ディスク・ストレージ要件を以下の表にリストします。その他のハードウェア推奨項目については、サポート・サービスに相談してください。

タイプ	推奨	注記
ハード・ディスク・ストレージ	状況によって異なる	RDBMS および ENTERPRISE ANALYZER テンプレート・データベースのソフトウェア・インストールには、最低でも 20GB のディスク・スペースが必要です。そのほかに、ENTERPRISE ANALYZER でモデル化されるアプリケーション・ソース・コードのバイト数を約 60 倍にしたサイズ（例えば、ソースが 100MB の場合は 6GB）が必要です。

リポジトリ・サーバー・ソフトウェア要件

リポジトリ・サーバーのソフトウェア要件を以下の表にリストします。

ソフトウェア	注記
DB/2	DB/2 9.5
Oracle	Oracle 9i、10g 注：リポジトリサーバーのバッチ更新処理（BRP）を使用する場合、Oracle は .NET に対応している必要があります。BRP をローカルに実行するための Oracle の要件は以下の通りです： ● Windows XP または Windows Server 2003 の場合、Oracle 10g, Fix Pack 2 または Oracle 11g ● Windows Vista または Windows Server 2008 の場合、Oracle 10g, Fix Pack 3 または Oracle 11g ● Windows 7 の場合 Oracle 11g
SQL Server	MS SQL Server 2005 または 2008

ENTERPRISE ANALYZER サーバー・ハードウェア要件

ENTERPRISE ANALYZER サーバーをインストールする場合のハードウェア要件を以下の表にリストします。ハードウェア要件は、分析するアプリケーションのサイズに応じて異なります。

タイプ	推奨	注記
プロセッサー	2.6 GHz デュアル・コア または、2 つの 3.0 GHz 以上のプロセッサー	マルチ・コアのプロセッサーを 1 つ使用するか、または独立した複数の物理プロセッサーを使用したデュアル処理機能が推奨されます。
物理メモリー	3GB RAM	

仮想メモリー	1GB から 3GB まで	
ハード・ディスク・ストレージ	状況によって異なる	ENTERPRISE ANALYZER でモデル化される アプリケーション・ソース・コードのバイト 数を約 40 倍にしたサイズ。 ENTERPRISE ANALYZER ソフトウェア用に、200MB 以上のディスク・スペース。 Java アドオン用に、115MB 以上。 データベース・クライアント用に、200MB 以上のディスク・スペース。

ENTERPRISE ANALYZER サーバー・ソフトウェア要件

ENTERPRISE ANALYZER サーバーをインストールする場合のソフトウェア要件を以下の表にリストします。

ソフトウェア	注記
オペレーティング・システム	Microsoft Windows XP Professional Service Pack 3 以上 (32-Bit/64-Bit) Microsoft Windows Server 2003 (32-Bit/64-Bit) Microsoft Windows Server 2008 (32-Bit/64-Bit) Microsoft Windows 7 (32-Bit/64-Bit)
データベース・クライアント	Oracle または DB/2 の場合 1 つのワークスペースを含む 1 つのデータベース・スキーマに対して 1 つの構成済み ODBC データ・ソース名 (DSN)。 Oracle クライアントで .NET に対応している必要があります。要件は以下の通りです： ● Windows XP または Windows Server 2003 の場合、Oracle 10g, Fix Pack 2 または Oracle 11g ● Windows Vista または Windows Server 2008 の場合、Oracle 10g, Fix Pack 3 または Oracle 11g ● Windows 7 の場合 Oracle 11g
Internet Explorer 6.0 以上（オプション）	
Microsoft Office（オプション）	Microsoft Office ファイル形式で保存するレポート作成機能を備えた ENTERPRISE ANALYZER ツールで 必要です。
Microsoft Visio（オプション）	出力を Microsoft Visio .VSD ファイルとして生成するために必要です。 注： Visio .VDX ファイルは XML ベースであり、ENTERPRISE ANALYZER EE クライアントに Visio が インストールされていない場合でも生成 できます。
JRE 1.5.0 以上（オプション）	Java アドオン用に必要です。アドオンのインストール後にインストールできます。

ENTERPRISE ANALYZER クライアント・ハードウェア要件

ENTERPRISE ANALYZER EE クライアントをインストールする場合のハードウェア要件を以下の表にリストします。ハードウェア要件は、分析するアプリケーションのサイズに応じて異なります。

タイプ	推奨	注記
プロセッサ	3.0 GHz プロセッサ	シングル・プロセッサ（シングル・コアまたはデュアル・コア）。
物理メモリー	1GB RAM	
仮想メモリー	1GB から 3GB まで	
ハード・ディスク・ストレージ	状況によって異なる	ENTERPRISE ANALYZER ソフトウェア用に、200MB 以上のディスク・スペース。データベース・クライアント用に、200MB 以上のディスク・スペース。

ENTERPRISE ANALYZER クライアント・ソフトウェア要件

ENTERPRISE ANALYZER クライアントをインストールする場合のソフトウェア要件を以下の表にリストします。

ソフトウェア	注記
オペレーティング・システム	Microsoft Windows XP Professional Service Pack 3 以上 (32-Bit/64-Bit) Microsoft Windows Server 2003 (32-Bit/64-Bit) Microsoft Windows Server 2008 (32-Bit/64-Bit) Microsoft Windows 7 (32-Bit/64-Bit)

データベース・クライアント	Oracle または DB/2 の場合 1 つのワークスペースを含む 1 つのデータベース・スキーマに対して 1 つの構成済み ODBC データ・ソース名 (DSN)。 Oracle クライアントで .NET に対応している必要があります。要件は以下の通りです： ● Windows XP または Windows Server 2003 の場合、Oracle 10g, Fix Pack 2 または Oracle 11g ● Windows Vista または Windows Server 2008 の場合、Oracle 10g, Fix Pack 3 または Oracle 11g ● Windows 7 の場合 Oracle 11g
Internet Explorer 6.0 (またはそれ以上)	ENTERPRISE ANALYZER EE クライアントで HTML レポート出力を表示するために必要です。 Enterprise View Express モジュールのクライアントとして必要です。
Microsoft Office (オプション)	Microsoft Office ファイル形式で保存するレポート作成機能を備えた ENTERPRISE ANALYZER ツールで必要です。
Microsoft Visio (オプション)	出力を Microsoft Visio .VSD ファイルとして生成するために必要です。 注： Visio .VDX ファイルは XML ベースであり、ENTERPRISE ANALYZER EE クライアントに Visio がインストールされていない場合でも生成できます。

3

ENTERPRISE ANALYZER のイン ストール および アンインストール

このセクションで説明されているインストール・プログラムを実行するには、インストールの実行場所となるマシンに対して管理許可が必要です。管理許可がない場合は、インストール・プログラムを続行できません。

データベース・クライアントのインストール

Oracle または DB/2 を使用する場合、ワークベンチのクライアントまたは サーバーをインストールする前に、ご使用のサイトで使用する RDBMS のクライアント・ソフトウェアをインストールして構成しておく必要があります。ご使用のマシンに RDBMS クライアント・ソフトウェアがまだインストールされていない場合は、このセクションの指示に従って RDBMS クライアント・ソフトウェアをインストールしてください。

DB/2 クライアントのインストール

DB/2 クライアントをインストールするには、このセクションの指示に従ってください。

注：DB/2 クライアントは .NET に対応している必要があります。DB/2 クライアントの標準的なインストールでは .NET 対応コンポーネントがインストールされます。

1. DB/2 クライアント・インストール用の setup.exe プログラムをダブルクリックします。初期画面が表示されます。「製品のインストール (**Install a Product**)」をクリックします。
2. インストールする製品を選択するように画面からプロンプトが出されます。「IBM Data Server Client」の下にある「新規インストール (**Install New**)」をクリックします。
3. DB/2 セットアップ・ウィザードが表示されます。「次へ」をクリックします。

4. 「ソフトウェアご使用条件 (Software License Agreement)」画面が表示されます。ご使用条件をよくお読みください。「使用条件の条項に同意します (**I accept the terms in the license agreement**)」をクリックして 条項に同意し、「次へ」をクリックします。
 5. インストール・タイプを選択するように画面からプロンプトが出されます。「標準 (**Typical**)」を選択して「次へ」をクリックします。
 6. **IBMData ServerClient** をインストールするように画面からプロンプトが出されます。「このコンピューターに **IBM Data Server Client** をインストール (**Install IBM Data Server Client on this computer**)」を選択して「次へ」をクリックします。
 7. インストール・フォルダーを選択するように画面からプロンプトが出されます。事前入力された値を受け入れる場合は、「次へ」をクリックします。別のフォルダーを指定する場合は、「変更」をクリックして以下のサブステップに従います。
 - a フォルダー構造をナビゲートして、適切な位置を見つけます。指定した宛先フォルダーが存在しない場合は、インストール時に作成されます。
 - b 「**OK**」をクリックして画面を終了し、インストール・フォルダー画面に戻ります。
 - c インストール・フォルダー画面で「次へ」をクリックします。
 8. DB/2 オブジェクトに対するオペレーティング・システムのセキュリティーを使用可能にするように画面からプロンプトが出されます。システム管理者やデータベース管理者から指示がない限りは、「オペレーティング・システムのセキュリティーを使用可能にする (Enable operating system security)」を選択解除して「次へ」をクリックします。
 9. インストール・ファイルをコンピューターにコピーし始めるように画面からプロンプトが出されます。「インストール」をクリックして、ご使用のマシンにファイルを転送する処理を開始します。進行状況表示メーターに、転送の進行状況が示されます。
 10. 転送が完了すると、セットアップの完了を知らせる画面が表示されます。「次へ」をクリックします。
 11. 追加製品をインストールするように画面からプロンプトが出されます。「終了」をクリックします。
-

Oracle クライアントのインストール

Oracle クライアント・ソフトウェアをインストールして構成するには、DBA からの以下の情報が必要となります。

- ワークスペース・リポジトリの保管先となるデータベースの TNS サービス名。

-
- そのデータベースがあるコンピューターのホスト名。
 - そのホストと通信するためのポート番号 (標準ポート番号を使用しない場合)。
 - データベースのユーザー ID とパスワード。
-

1. Oracle クライアント・インストール用の **setup.exe** プログラムをダブルクリックします。初期画面が表示されます。
2. 「次へ」をクリックします。「インストール・タイプの選択 (Select Installation Type)」画面が表示されます。「カスタム」を選択します。
3. 「次へ」をクリックします。「ホーム詳細の指定 (Specify Home Details)」画面が表示されます。必要に応じて、このインストールに対して別の名前とパスを入力します。別の名前とパスを入力しない場合は、デフォルトを受け入れます。
4. 「次へ」をクリックします。「使用可能な製品コンポーネント (Available Product Components)」画面が表示されます。以下のコンポーネントを選択します。
 - SQL *Plus
 - Oracle JDBC/THIN Interfaces
 - Oracle Windows Interfaces。「Oracle Windows Interfaces」の下にある「Oracle ODBC Driver」以外のすべての項目を選択解除します。
 - Oracle Call Interface (OCI)
 - Oracle Net
5. 「次へ」をクリックします。インストーラーは前提条件を調べて、ご使用の環境がインストールの最小必要要件を満たしていることを確認します。必要に応じて、フラグが立てられた項目を解決します。
6. 「次へ」をクリックします。選択した内容を「要約」画面で確認します。エラーを修正する場合は、「戻る」ボタンを使用します。すべての情報が正しければ、「インストール (**Install**)」をクリックします。
7. インストールが完了すると、Oracle Net Configuration Assistant が起動されます。
8. 「次へ」をクリックします。「命名メソッド構成 (Naming Methods Configuration)」画面が表示されます。「選択されている命名メソッド (Selected Naming Methods)」フィールドに「ローカル命名 (Local Naming)」が表示されていることを確認します。

-
9. 「次へ」をクリックします。「Net サービス名構成 (Net Service Name Configuration)」画面が表示されます。「サービス名 (**Service Name**)」フィールドに、ワークスペース・リポジトリの保管先となるデータベースの TNS サービス名を入力します。これは、DBA が指定する名前です。
 10. 「次へ」をクリックします。「プロトコルの選択 (Select Protocols)」画面が表示されます。「TCP」を選択します。
 11. 「次へ」をクリックします。「TCP/IP プロトコル (TCP/IP Protocol)」画面が表示されます。Oracle データベースがあるコンピュータのホスト名を入力します。これは、DBA が指定する名前です。DBA から特に指示がなければ、ポート番号には標準ポート番号の 1521 を使用します。
 12. 「次へ」をクリックします。「テスト (Test)」画面が表示されます。「はい、テストを実行します (Yes, perform a test)」を選択します。
 13. 「次へ」をクリックします。テストが成功しなかったというメッセージが表示されるはずです。これは、テスト用に使用されているデフォルト・ログインが Oracle SYSTEM ログインであるためです。ユーザー名とパスワードを、DBA が指定するユーザー名とパスワードに変更する必要があります。
 14. 「ログインの変更 (Change Login)」をクリックします。「ログインの変更 (Change Login)」ダイアログで、DBA が指定するユーザー ID とパスワードを入力します。
 15. 「OK」をクリックします。今度は、接続テストが成功したというメッセージが表示されるはずです。テストがまだ成功しない場合は、「ログインの変更 (**Change Login**)」をクリックして、DBA が指定する正しい資格情報を入力したことを確認します。問題が解決しない場合は、DBA に連絡してサポートを要請してください。
 16. 「次へ」をクリックします。「Net サービス名 (Net Service Name)」画面が表示されます。
 17. 「Net サービス名 (Net Service Name)」フィールドには、「Net サービス名構成 (Net Service Name Configuration)」画面で指定した TNS サービス名が事前に入力されています。「次へ」をクリックします。「追加 Net サービス名 (Additional Net Service Names)」画面が表示されます。
 18. 「追加 Net サービス名 (Additional Net Service Names)」画面では、追加 TNS サービス名を構成します。構成する追加 TNS サービス名は、接続先とすべきデータベース・インスタンス 1 つに対して 1 つです。このステップはオプションです。追加 TNS サービス名を構成する場合は、「はい」を選択します。構成を完了する場合は、「いいえ」を選択します。

注：後から追加データベース・インスタンスに接続しなければならない場合は、tnsnames.ora ファイルを手動で編集することで TNS サービス名を追加できます。詳しくは、DBA に確認してください。
 19. 「次へ」をクリックします。続けて、後続の 2 つの画面で「次へ」をクリックして、Oracle Net の構成を完了します。
 20. 「Oracle Net 構成完了 (Oracle Net Configuration completion)」画面で「終了 (**Finish**)」をクリックして、Net Configuration Assistant を終了します。
-

21. Oracle インストーラーのウィンドウが表示されます。「終了
(Exit)」をクリックします。終了の確認プロンプトが出されます。
「はい」をクリックします。
-

ENTERPRISE ANALYZER サーバーへの ENTERPRISE ANALYZER のインストール

ENTERPRISE ANALYZER サーバーは、ENTERPRISE ANALYZER ワークスペース・ファイルおよび関連サポート・ファイルをホストします。ENTERPRISE ANALYZER をサーバーにインストールするには、このセクションの指示に従ってください。

注：ENTERPRISE ANALYZER リポジトリと同じマシンに
ENTERPRISE ANALYZER をインストールしないでください。

1. 製品のインストール・フォルダーに入っている **setup.exe** プログラムをダブルクリックします。必須ソフトウェアがインストール済みの場合初期画面が表示されます。そうでない場合、不足しているソフトウェアのインストールプロンプトが表示されます。
2. 「次へ」をクリックします。「ご使用条件 (License Agreement)」画面が表示されます。ご使用条件をよくお読みください。「使用条件の条項に同意します (I **accept the terms in the license agreement**)」をクリックして 条項に同意し、「次へ」をクリック します。
3. 「カスタマー情報 (Customer Information)」画面が表示されます。ユーザー名と組織をそれぞれ「ユーザー名」フィールドと「組織 (Organization)」フィールドに入力します。「次へ」をクリック します。
4. 「宛先フォルダー (Destination Folder)」画面が表示されます。インストール・フォルダーを選択します。事前入力された値を受け入れる場合は、「次へ」をクリックします。別のフォルダーを指定する場合は、「変更」をクリックして以下のサブステップに従います。
 - a フォルダー構造をナビゲートして、適切な位置を見つけます。指定した宛先フォルダーが存在しない場合は、インストール時に作成されます。
 - b 「OK」をクリックして「現在の宛先フォルダーを変更」画面を終了し、「宛先フォルダー」画面に戻ります。
 - c 「宛先フォルダー (Destination Folder)」画面で「次へ」をクリックします。

5. 「プログラムをインストールする準備ができました (Ready to Install the Program)」画面が表示されます。「インストール」をクリックして、ご使用のマシンにファイルを転送する処理を開始します。進行状況表示メーターに、転送の進行状況が示されます。

注：設定を変更するには、該当項目が表示されるまで「戻る」を何度かクリックし、必要な変更を加えます。その後、「プログラムをインストールする準備ができました (Ready to Install the Program)」画面に戻るまで「次へ」をクリックします。
 6. 転送が完了すると、「セットアップ完了 (Setup Complete)」画面が表示されます。「終了」をクリックします。
 7. 次の HotFix をダブルクリックして実行して適用します。インストーラが起動すると、セットアップ画面が表示されるので、指示に従って、HotFix を適用します。(HotFix 適用後は HotFix のみをアンインストールすることはできない仕様となっています。)

● HotFix12_3.3.00.2363¥HotFix12-en.exe
 8. すべての製品のインストール完了後、既存のワークスペースがある場合は、ワークスペースのアップグレードが必要です。
-

Java アドオンのインストール

Java アドオンをインストールするには、製品のインストール・フォルダーで Java.Addon.exe をダブルクリックします。

ENTERPRISE ANALYZER ファイル・サーバーのインストール(オプション)

あるサイトでは、マスター・ユーザーのみがワークスペース・ソース・ファイルに Windows からアクセスできるようにしますが、ENTERPRISE ANALYZER 上では通常の利用者もソース・ファイルを使用できるようにする必要があります。ENTERPRISE ANALYZER EE ファイル・サーバーは、このようなサイト用のオプション製品です。

ワークスペース・フォルダーの特権が正しくセットアップされていれば、通常のユーザーは、ENTERPRISE ANALYZER 上でソースを表示したり 分析したりできますが、それ以外の目的ではそのソースにアクセスできません。

ファイル・サーバーを使用する場合、ENTERPRISE ANALYZER サーバーと同じマシンにそのファイル・サーバーをインストールする必要があります。ファイル・サーバーのインストール・パッケージはサーバーと同じ CD に収められています。

-
1. ファイル・サーバー・インストール・フォルダーに入っている **setup.exe** プログラムをダブルクリックします。必須ソフトウェアがインストール済みの場合初期画面が表示されます。そうでない場合、不足しているソフトウェアのインストールプロンプトが表示されます。
 2. 「次へ」をクリックします。「ご使用条件 (License Agreement)」画面が表示されます。ご使用条件をよくお読みください。「使用条件の条項に同意します (**I accept the terms in the license agreement**)」をクリックして条項に同意し、「次へ」をクリックします。
 3. 「宛先フォルダー (Destination Folder)」画面が表示されます。インストール・フォルダーを選択します。事前入力された値を受け入れる場合は、「次へ」をクリックします。別のフォルダーを指定する場合は、「変更」をクリックして以下のサブステップに従います。
 - a フォルダー構造をナビゲートして、適切な位置を見つけます。指定した宛先フォルダーが存在しない場合は、インストール時に作成されます。
 - b 「**OK**」をクリックして「現在の宛先フォルダーを変更」画面を終了し、「宛先フォルダー」画面に戻ります。
 - c 「宛先フォルダー (Destination Folder)」画面で「次へ」をクリックします。
 4. 「セットアップ・タイプ (Setup Type)」画面が表示されます。「カスタム」を選択して「次へ」をクリックします。
 5. 「カスタム・セットアップ (Custom Setup)」画面が表示されます。「ENTERPRISE ANALYZER ファイル・サーバー (ENTERPRISE ANALYZER File Server)」を選択して「次へ」をクリックします。
 6. 「プログラムをインストールする準備ができました (Ready to Install the Program)」画面が表示されます。「インストール」をクリックして、ご使用のマシンにファイルを転送する処理を開始します。進行状況表示メーターに、転送の進行状況が示されます。

注：設定を変更するには、該当項目が表示されるまで「戻る」を何度かクリックし、必要な変更を加えます。その後、「プログラムをインストールする準備ができました (Ready to Install the Program)」画面に戻るまで「次へ」をクリックします。
 7. 転送が完了すると、「セットアップ完了 (Setup Complete)」画面が表示されます。「終了」をクリックします。
-

ENTERPRISE ANALYZER クライアントへの ENTERPRISE ANALYZER のインストール

ENTERPRISE ANALYZER クライアントは、サーバー上のワークスペースに接続するため に使用されるリンク・ファイルをホストします。ENTERPRISE ANALYZER をクライアント にインストールするには、このセクションの指示に従ってください。

注： ENTERPRISE ANALYZER クライアントにインストールするセットアップは ENTERPRISE ANALYZER サーバーにインストールするものと同一です。

1. 製品のインストール・フォルダーに入っている **setup.exe** プログラムをダブルクリックします。必須ソフトウェアがインストール済みの場合初期画面が表示されます。そうでない場合、不足しているソフトウェアのインストールプロンプトが表示されます。
2. 「次へ」をクリックします。「ご使用条件 (License Agreement)」画面が表示されます。ご使用条件をよくお読みください。「使用条件の条項に同意します (I **accept the terms in the license agreement**)」をクリックして 条項に同意し、「次へ」をクリック します。
3. 「カスタマー情報 (Customer Information)」画面が表示されます。 ユーザー名と組織をそれぞれ「ユーザー名」フィールドと「組織 (Organization)」フィールドに入力します。「次へ」をクリックします。
4. 「宛先フォルダー (Destination Folder)」画面が表示されます。インストール・フォルダーを選択します。事前入力された値を受け入れる場合は、「次へ」をクリックします。別のフォルダーを指定する場合は、「変更」をクリックして以下のサブステップに従います。
 - a フォルダー構造をナビゲートして、適切な位置を見つけます。指定した宛先フォルダーが存在しない場合は、インストール時に作成されます。
 - b 「**OK**」をクリックして「現在の宛先フォルダーを変更」画面を終了し、「宛先フォルダー」画面に戻ります。
 - c 「宛先フォルダー (Destination Folder)」画面で「次へ」をクリックします。
5. 「プログラムをインストールする準備ができました (Ready to Install the Program)」画面が表示されます。「インストール」をクリックして、ご使用のマシンにファイルを転送する処理を開始します。進行状況表示メーターに、転送の進行状況が示されます。

注： 設定を変更するには、該当項目が表示されるまで「戻る」を何度かクリックし、必要な変更を加えます。その後、「プログラムをインストールする準備ができました (Ready to Install the Program)」画面に戻る まで「次へ」をクリックします。

6. 転送が完了すると、「セットアップ完了 (Setup Complete)」画面が表示されます。「終了」をクリックします。
 7. 次の HotFix をダブルクリックして実行して適用します。インストーラが起動すると、セットアップ画面が表示されるので、指示に従って、HotFix を適用します。(HotFix 適用後は HotFix のみをアンインストールすることはできない仕様となっています。)
 - HotFix12_3.3.00.2363¥HotFix12-en.exe
 8. すべての製品のインストール完了後、既存のワークスペースがある場合は、ワークスペースのアップグレードが必要です。
-

ENTERPRISE ANALYZER ファイル・サーバー・クライアントのインストール(オプション)

あるサイトでは、マスター・ユーザーのみがワークスペース・ソース・ファイルに Windows からアクセスできるようにしますが、ENTERPRISE ANALYZER 上では通常のユーザーもソース・ファイルを使用できるようにする必要があります。ENTERPRISE ANALYZER EE ファイル・サーバーは、このようなサイト用のオプション製品です。通常のユーザーは、ENTERPRISE ANALYZER 上でソースを表示したり分析したりできますが、それ以外の目的ではそのソースにアクセスできません。

ファイル・サーバーを使用する場合、ENTERPRISE ANALYZER クライアントと同じマシンにファイル・サーバー・クライアントをインストールする必要があります。ファイル・サーバー・クライアントのインストール・パッケージはクライアントと同じ CD に収められています。

1. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - Micro Focus の FTP サイトからファイル・サーバー・クライアントをインストールする場合は、ファイル・サーバー・クライアントのインストール・フォルダーを自分のハード・ディスクにコピーします。そのフォルダーに入っている setup.exe プログラムをダブルクリックします。初期画面が表示されます。

- CD からファイル・サーバー・クライアントをインストール する場合は、CD を CD-ROM ドライブに挿入します。CD が自動実行され、初期画面が表示されます。

注：CD が自動実行されない場合は、CD に収められているファイル・サーバー・クライアント用インストール・フォルダー内の **setup.exe** プログラムをダブルクリックします。

2. 「次へ」をクリックします。「ご使用条件 (License Agreement)」画面が表示されます。ご使用条件をよくお読みください。「使用条件 の条項に同意します (I **accept the terms in the license agreement**)」をクリックして 条項に同意し、「次へ」をクリック します。
 3. 「宛先フォルダー (Destination Folder)」画面が表示されます。インストール・フォルダーを選択します。事前入力された値を受け入れる場合は、「次へ」をクリックします。別のフォルダーを指定する場合は、「変更」をクリックして以下のサブステップに従います。
 - a フォルダー構造をナビゲートして、適切な位置を見つけます。指定した宛先フォルダーが存在しない場合は、インストール時に作成されます。
 - b 「**OK**」をクリックして「現在の宛先フォルダーを変更」画面を終了し、「宛先フォルダー」画面に戻ります。
 - c 「宛先フォルダー (Destination Folder)」画面で「次へ」をクリックします。
 4. 「セットアップ・タイプ (Setup Type)」画面が表示されます。「カスタム」を選択して「次へ」をクリックします。
 5. 「カスタム・セットアップ (Custom Setup)」画面が表示されます。「ENTERPRISE ANALYZER ファイル・クライアント (ENTERPRISE ANALYZER **File Client**)」を選択して「次へ」をクリックします。
 6. 「プログラムをインストールする準備ができました (Ready to Install the Program)」画面が表示されます。「インストール」をクリックして、ご使用のマシンにファイルを転送する処理を開始します。進行状況表示メーターに、転送の進行状況が示されます。

注：設定を変更するには、該当項目が表示されるまで「戻る」を何度か クリックし、必要な変更を加えます。その後、「プログラムをインストールする準備ができました (Ready to Install the Program)」画面に戻る まで「次へ」をクリック します。
 7. 転送が完了すると、「セットアップ完了 (Setup Complete)」画面が表示されます。「終了」をクリックします。
-

ENTERPRISE ANALYZER のアンインストール

ENTERPRISE ANALYZER 製品をアンインストールするには、以下の指示に従ってください。アンインストール・プログラムを実行する前に、開いている ENTERPRISE ANALYZER プログラムをすべて閉じてください。

1. 「スタート」：「設定」：「コントロール パネル」を選択します。
 2. 「コントロールパネル」ウィンドウで「プログラムの追加と削除」アイコンをダブルクリックします。
 3. 「プログラムの追加と削除」ウィンドウで、アンインストールする製品を選択し、「削除」をクリックします。製品のアンインストールを確認するプロンプトが出されます。「はい」をクリックします。
 4. アンインストール処理が完了すると、コンピューターを再始動するように求めるプロンプトが表示されます。直ちに再始動するには「はい」を、後で再始動する場合は「いいえ」をクリックします。
-

4

理用タスク

ENTERPRISE ANALYZER で作業を行うには、このセクションの説明にある基本的な管理用タスクを完了する必要があります。インストールを完了したときに、ライセンス・ロケーションを指定して最初の管理用タスクを実行するようにプロンプトが出されます。

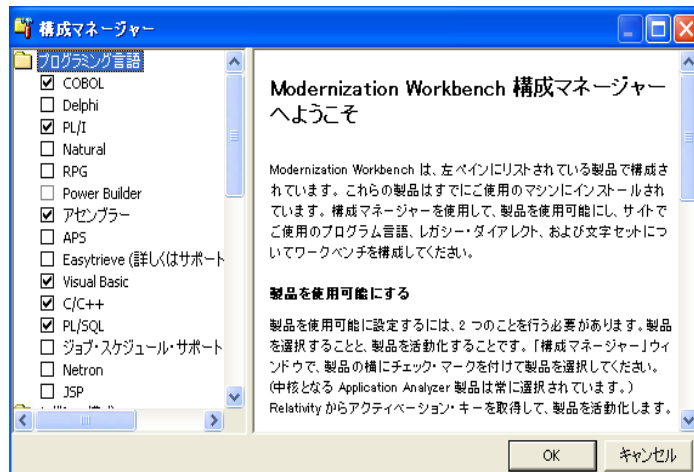
ワークベンチの構成

サイトで使用するプログラミング言語、ダイアレクト、文字セット、および製品に合わせてワークベンチのオプションと表示を構成するには、ワークベンチ管理ツールの構成マネージャーを使用します。

例えば、COBOL 用にワークベンチを構成する場合は、COBOL の最新化に適したワークベンチ・オプションと内容のみが表示されます。PL/I 用にもワークベンチを構成する必要がある場合は、いつでも構成マネージャーに戻ることができるので、COBOLに加えてPL/Iも選択できます。

1. 「構成マネージャー」ウィンドウを開きます。
 - ENTERPRISE ANALYZER EE クライアントまたはサーバーをインストールしている場合は、ライセンス・ロケーションの指定を終了すると、「構成マネージャー」ウィンドウが表示されます。
 - すでに ENTERPRISE ANALYZER EE クライアントまたはサーバーをインストール していて、それを再構成する必要がある 場合は、「スタート」：「プログラム」：「**Micro Focus**」：「**Enterprise Analyzer Administration**」を選択します。「Enterprise Analyzer Administration」ウィンドウが表示されます。「管理」メニューで「ワークベンチの構成」を選択します。「構成マネージャー」ウィンドウが開きます。

注： ワークベンチが開いている場合は、終了するようにプロンプトが出されます。「OK」をクリックして、ワークベンチを閉じます。



2. サイトで現在使用している各プログラミング言語、ダイアレクト、および文字セットを選択します。サイトで使用する各ワークベンチ製品を選択します。中核となる Application Analyzer 製品は 常に選択されています。標準的なワークベンチ構成では使用されないツールを使用可能にするには、「追加ツール」を選択します。選択に問題がない場合は、「OK」をクリックします。

注：ワークベンチ構成を変更する場合は、前の構成で作成されたワークスペースを必ずアップグレードしてください。

ライセンス

Enterprise Analyzer を構成する 3 製品 (Application Analyzer, Business Rule Manager, Application Architect) はすべてワークベンチと共にインストールされますが、それぞれ個別にライセンスされます。各製品のライセンスを管理するには以下の手順に従ってください。

Application Analyzer のライセンス

Application Analyzer のユーザはインストール後 30 日間はライセンス認証なしに使用することができます。インストール時に Sentinel RMS ライセンスサーバーが同時にインストールされます。お客様サイトでのライセンスモデルに応じて以下のいずれかの方法で管理することができます。

- 使用するコンピュータにインストール済みの Sentinel License Server を使用したローカル管理
- ライセンスの集中管理用に構成された Sentinel License Server を使用したリモート管理

ライセンス認証を行う前にはワークベンチを起動するたびに毎回認証なしで使用できる期間を通知するダイアログが現れます。

ローカル管理の場合は、16桁の Application Analyzer 認証コードを入力し **[Authorize]** をクリックしてください。

リモート管理の場合は、**[Advanced]** をクリックし **[License Server]** の IP アドレスを構成済み License Server のアドレスに変更してください。

Business Rule Manager と Application Architect のライセンス

Business Rule Manager と Application Architect には 30 日間の認証不要期間はありません。それぞれに対する 16 桁の認証コードを入力するまで使用することはできません。

ODBC データ・ソース名の構成

ODBC データ・ソース名 (DSN) は、データベース・インスタンスに接続するための一連の資格情報です。ENTERPRISE ANALYZER で作業するには、ワークスペース・リポジトリを保持するデータベースの DSN を構成しておく必要があります。

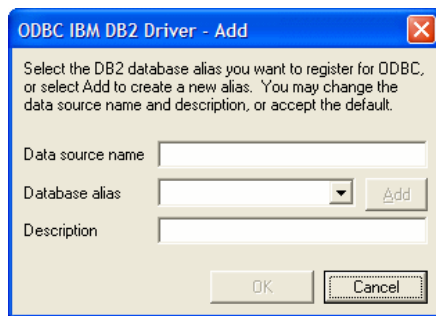
DB/2 ODBC データ・ソース名の構成

DB/2 ODBC データ・ソース名 (DSN) を構成するには、DBA から以下の情報を入手する必要があります。

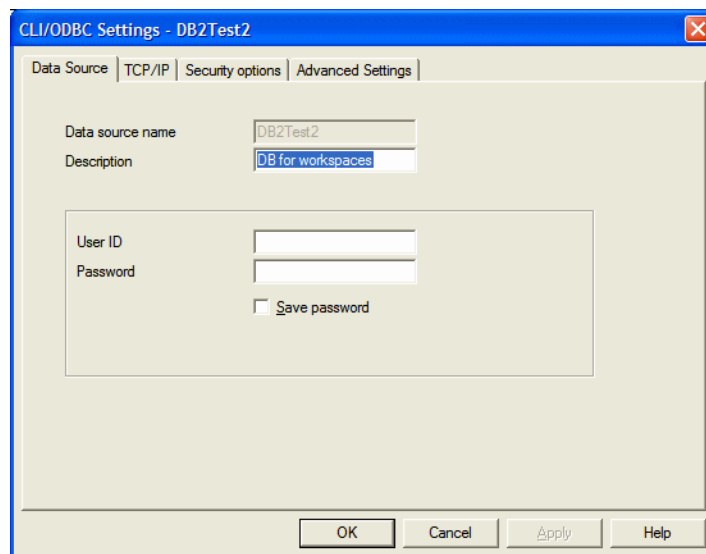
- ワークスペース・リポジトリの保管先となるデータベースの名前。
- そのデータベースがあるコンピューターのホスト名。
- そのホストと通信するためのポート番号 (標準ポート番号を使用しない場合)。

注: DSN をいつでも確認できるようにしておいてください。
ENTERPRISE ANALYZER ワークスペースを作成するときに、DSN を指定する必要があります。ワークスペースの作成方法については、ワークベンチ資料セットにある「始めに」を参照してください。

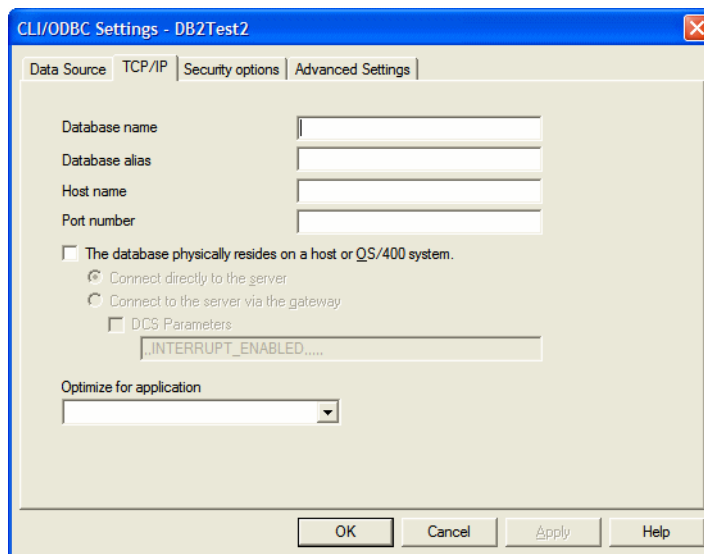
-
1. Windows の「コントロールパネル」で「管理ツール」をダブルクリックします。「管理ツール」ウィンドウが表示されます。
 2. 「データソース (ODBC)」をダブルクリックします。「ODBC データソースアドミニストレータ」ウィンドウが表示されます。
 3. 「システム DSN」タブを選択して「追加」をクリックします。「データソースの新規作成」ウィンドウが表示されます。
 4. 「IBM DB2 ODBC DRIVER - DB2COPY1」を選択して、「完了」をクリックします。「ODBC IBM DB2 ドライバー構成 (ODBC IBM DB2 Driver configuration)」ダイアログが表示されます。



5. 「データ・ソース名 (**Data Source Name**)」フィールドに、データ・ソースを識別するための名前を自由に入力します。全社的に使用する共通 DSN を DBA が指定している場合は、それをここに入力します。
6. オプションで「説明 (**Description**)」フィールドにデータ・ソースの説明を入力します。
7. 「データベース別名 (**Database alias**)」フィールドのドロップダウンから既存のデータベース別名を選択し、「OK」をクリックします。
8. データベース別名が定義されていない場合は、「追加」をクリックします。「CLI/ODBC 設定 (CLI/ODBC Settings)」ウィンドウが表示されます。



9. 「データ・ソース (Data Source)」タブの「データ・ソース名 (**Data source name**)」フィールドと「説明 (**Description**)」フィールドには、「ODBC IBM DB2 ドライバー構成 (ODBC IBM DB2 Driver configuration)」ダイアログで指定した情報が事前に入力されています。「ユーザー ID (**User ID**)」フィールドにドメイン・ユーザー名を入力します。「パスワード (**Password**)」フィールドにドメイン・ユーザーのパスワードを入力します。これらのフィールドでは大/小文字が区別されます。
10. 「TCP/IP」タブを選択します。



11. 「TCP/IP」タブで以下の情報を指定します。

- 「データベース名 (Database name)」フィールドに、ワークスペース・リポジトリの保管先となるデータベースの名前を入力します。
- 「データベース別名 (Database alias)」フィールドにデータベース別名を入力します。
- 「ホスト名」フィールドに、データベースがあるコンピュータのホスト名を入力します。
- 「ポート番号」フィールドに、ホストと通信するためのポート番号を入力します。DBA から特に指示がなければ、ポート番号には標準ポート番号の 50000 を使用します。

12. 「OK」をクリックします。「ODBC データ ソース アドミニストレータ」ウィンドウに戻ります。新規データ・ソース名を選択して、「構成」をクリックします。データ・ソースの「CLI/ODBC 設定 (CLI/ODBC Settings)」ウィンドウが表示されます。

13. 「データ・ソース (Data Source)」タブの「データ・ソース名 (Data source name)」フィールドと「説明 (Description)」フィールドには、「ODBC IBM DB2 ドライバー構成 (ODBC IBM DB2 Driver configuration)」ダイアログで指定した情報が事前に入力されています。「ユーザー ID (User ID)」フィールドにドメイン・ユーザー名を入力します。「パスワード (Password)」フィールドにドメイン・ユーザーのパスワードを入力します。これらのフィールドでは大/小文字が区別されます。「接続 (Connect)」をクリックして、データベース接続をテストします。接続が正常に確立されたことが通知されます。「OK」をクリックします。

注： エラーが発生する場合は、ドライバー構成の設定を確認して、接続を再テストしてください。問題が解決しない場合は、DBA に確認してください。

14. 「OK」をクリックして、「CLI/ODBC 設定 (CLI/ODBC Settings)」ウィンドウを閉じます。続いて、「OK」を再度クリックして「ODBC データ ソース アドミニストレータ」ウィンドウを終了します。

Oracle ODBC データ・ソース名の構成

Oracle データ・ソース名 (DSN) を構成するには、ワークスペース・リポジトリの保管先となるデータベースの TNS サービス名を指定しておく必要があります。これは、リポジトリ・クライアントをインストールしたときに入力した TNS サービス名です。Oracle DSN を構成するには、データベースのユーザー ID とパスワードも DBA から入手する必要があります。

注： DSN をいつでも確認できるようにしておいてください。

ENTERPRISE ANALYZER ワークスペースを作成するときに、DSN を指定する必要があります。ワークスペースの作成方法については、ワークベンチ資料セットにある「始めに」を参照してください。

1. Windows の「コントロール パネル」で「管理ツール」をダブルクリックします。「管理ツール」ウィンドウが表示されます。
2. 「データ ソース (ODBC)」をダブルクリックします。「ODBC データ ソース アドミニストレータ」ウィンドウが表示されます。
3. 「システム DSN」タブを選択して「追加」をクリックします。「データ ソースの新規作成」ダイアログが表示されます。
4. 適切な Oracle ドライバーを選択して「完了」をクリックします。「Oracle ODBC ドライバー構成 (Oracle ODBC Driver Configuration)」ウィンドウが表示されます。

5. 「Oracle ODBC ドライバー構成 (Oracle ODBC Driver Configuration)」ウィンドウで以下の情報を指定します。
 - 「データ・ソース名 (Data Source Name)」フィールドに、データ・ソースを識別するための名前を自由に入力します。全社的に使用する共通 DSN を DBA が指定している場合は、それをここに入力します。
 - オプションで「説明 (Description)」フィールドにデータ・ソースの説明を入力します。

- 「**TNS サービス名 (TNS Service Name)**」ドロップダウンで、ワークスペース・リポジトリの保管先となるデータベースの TNS サービス名を選択します。選択項目が表示されなかったり、選択する名前が分からなかったりする場合は、DBA に問い合わせてください。
 - 「**ユーザー ID (User ID)**」フィールドに、DBA が指定するデータベース・ユーザー ID を入力します。
6. 「**テスト接続 (Test Connection)**」をクリックします。「Oracle ODBC ドライバー接続 (Oracle ODBC Driver Connect)」ウィンドウが表示されます。
 7. 「Oracle ODBC ドライバー接続 (Oracle ODBC Driver Connect)」ウィンドウの「**サービス名 (Service Name)**」フィールドと「**ユーザー ID (User ID)**」フィールドには、「Oracle ODBC ドライバー構成 (Oracle ODBC Driver Configuration)」ウィンドウで指定した情報が事前に入力されています。ユーザー ID に対するパスワードを入力して、「OK」をクリックします。接続が正常に確立されたことが通知されます。「**OK**」をクリックします。

注：エラーが発生する場合は、ドライバー構成の設定を確認して、接続を再テストしてください。問題が解決しない場合は、DBA に確認してください。
 8. 「**OK**」をクリックして、ドライバー構成ウィンドウを終了します。続いて、「OK」を再度クリックして「**ODBC データ ソース アドミニストレータ**」ウィンドウを終了します。
-

ワークスペースの共用フォルダーの作成

ワークスペースの作成場所にしようとしているフォルダーは、チーム・メンバーで共用されなければなりません。通常は、ワークスペースを作成する前にフォルダーを共用の方が便利ですが、必要に応じて後でフォルダーを共用してからワークスペース・パスを更新することもできます(ワークベンチ資料セットの「始めに」を参照)。

ワークスペースの共用フォルダーを作成するには、以下の指示に従ってください。共用フォルダーを作成するユーザーは、管理者でなければなりません。

1. ENTERPRISE ANALYZER サーバー・マシンに ENTERPRISE ANALYZER ワークスペースのフォルダーを作成します。フォルダーを選択して、右クリック・メニューで「共有 とセキュリティ」を選択します。そのフォルダーの「プロパティ」ダイアログが表示されます。「プロパティ」ダイアログの「共有」タブで「ネットワーク上でこのフォルダを共有する」(または、Windows ドメイン内のマシンでは「このフォルダを共有する」)を選択します。
-

「共有名」フィールドに共用名を入力して「適用」をクリックします。

注： 共用名にはスペースを含めないでください。スペースを含めると、他のユーザーがそのフォルダーにアクセスできなくなることがあります。

2. 「アクセス許可」をクリックします。「フォルダー のアクセス許可」ダイアログが表示されます。フォルダーを共用するユーザーに対して適切な許可を指定し、「OK」をクリックします。
-

ファイル・サーバー・セットアップ

あるサイトでは、マスター・ユーザーのみがワークスペース・ソース・ファイルに Windows から アクセスできるようにしますが、ENTERPRISE ANALYZER 上では通常ユーザーもソース・ファイルを使用できるようにする必要があります。ENTERPRISE ANALYZER EE ファイル・サーバーは、このようなサイト用のオプション製品です。ワークスペース・フォルダーの特権が正しくセットアップされていれば、通常ユーザーは、ENTERPRISE ANALYZER 上でソースを表示したり分析したりできますが、それ以外の目的ではそのソースにアクセスできません。

ワークスペース・フォルダー特権をセットアップするには、以下の指示に従ってください。最初の2つのステップを実行するユーザーは、管理者でなければなりません。

注： サイトでENTERPRISE ANALYZER EE ファイル・サーバーが使用されている 場合、ENTERPRISE ANALYZER クライアント・マシンではマスター・ユーザーを構成できません。クライアント・マシン上のすべてのユーザーが通常ユーザーでなければなりません。

1. ENTERPRISE ANALYZER サーバー・マシンで「設定」：「コントロールパネル」：「管理ツール」：「コンピュータの管理」を開きます。「コンピュータ の管理」ウィンドウで、EA Masters と EA Users という2つのグループを作成します。EA Masters グループには、管理者などのマスター・ユーザーを入れます。EA Users グループには、通常ユーザーを入れ、「3つのグループ・セキュリティ・ポリシー (Three-Group Security Policy)」を使用する場合は、エキスパート (SME) も入れます。

注： グループ名は任意です。希望する名前を使用できます。

2. ENTERPRISE ANALYZER サーバー・マシンに ENTERPRISE ANALYZER ワークスペースの フォルダーを作成 します。フォルダーを選択して、右クリック・メニューで「共有 とセキュリティ」を選択します。そのフォルダーの「プロパティ」ダイアログが表示されます。「プロパティ」ダイアログの「共有」タブで「ネットワーク上でこのフォルダを共有する」(または、Windows ドメイン内のマシンでは「このフォルダを共有する」)を選択します。「共有名」フィールドに共用名を入力して「適用」をクリックします。

注：共用名にはスペースを含めないでください。スペースを含めると、他のユーザーがそのフォルダーにアクセスできなくなることがあります。

3. 「プロパティ」ダイアログの「セキュリティ」タブで、ENTERPRISE ANALYZER Masters グループと ENTERPRISE ANALYZER Users グループ、およびローカル SYSTEM アカウントに共用フォルダーのフル・アクセス許可を付与して、「OK」をクリックします。
4. 共用フォルダーに新規ワークスペースを作成します。「接続」タブで接続パラメーターを定義した後で「セキュリティ」タブをクリックし、「ENTERPRISE ANALYZER ファイル・サーバーを介したセキュア・ソース・アクセス」を選択します。サーバー名は、ENTERPRISE ANALYZER サーバー・マシンの名前にします。ポート番号の値はそのままにして、「OK」をクリックします。

注：新規ワークスペースの作成について詳しくは、ワークベンチ資料 セットにある「始めに」を参照してください。

5. ワークスペースのフォルダーにある Sources サブフォルダーを右クリックして、「プロパティ」を選択します。「Sources のプロパティ」ダイアログで「セキュリティ」タブをクリックします。「セキュリティ」タブで「詳細設定」をクリックします。「Sources のセキュリティの詳細設定」ダイアログで「子オブジェクトに適用するアクセス許可エントリを親から継承し、それらをここで明示的に定義されているものに含める」を選択解除します。「セキュリティ」ダイアログが表示されます。「セキュリティ」ダイアログで「コピー」をクリックします。「Sources のセキュリティの詳細設定」ダイアログに戻ります。
6. 「Sources のセキュリティの詳細設定」ダイアログで「子オブジェクトすべてのアクセス許可エントリを、ここに表示されているエントリで子オブジェクトに適用するもので置換する」を選択します。「アクセス許可エントリ」リストで EA Users グループを選択して、「削除」をクリックします。
7. 「Sources のセキュリティの詳細設定」ダイアログで「追加」をクリックします。「ユーザー、コンピュータ または グループ の選択」ダイアログが表示されます。「ユーザー、コンピュータ または グループ の選択」ダイアログで EA Masters (または、ENTERPRISE ANALYZER マスター・ユーザー・グループに対して選択した任意の名前) を入力して、「OK」をクリックします。「Sources のアクセス許可エントリ」ダイアログが表示されます。「フルコントロール」設定で「許可」にチェック・マークを付けて、「OK」をクリックします。「Sources のセキュリティの詳細設定」ダイアログに戻ります。
8. 「Sources のセキュリティの詳細設定」ダイアログで「OK」をクリックします。続行を求めるプロンプトが出されます。「はい」をクリックします。「Sources のプロパティ」ダイアログで「OK」をクリックします。

ワークスペースのアップグレード

ワークベンチ構成を変更する場合は、前の構成で作成されたすべてのワークスペースをアップグレードする必要があります。ワークスペースをアップグレードできるのは、マスター・ユーザーのみです。

1. 「スタート」：「プログラム」：「**Micro Focus**」：「**Enterprise Analyzer Administration**」を選択します。「Enterprise Analyzer Administration」ウィンドウが表示されます。
 2. 「Administration」ウィンドウの「管理」メニューで「ワークスペースのアップグレード」を選択します。「ワークスペースのアップグレード」ダイアログが表示されます。このダイアログで、アップグレードするワークスペースを選択できます。
-

5

インストールのトラブルシューティング

ENTERPRISE ANALYZER EE のインストールのトラブルシューティングを行うには、このセクションの指示に従ってください。

Oracle エラーのトラブルシューティング

一般的な Oracle エラーをトラブルシューティングするには、このセクションの指示に従ってください。

ORA-00958: 名前が既存のオブジェクトによってすでに使用されています (**name is already used by an existing object**)

このエラーは、別のスキーマの作成にすでに使用されている Oracle ID でワークスペースのスキーマが作成されたことが原因で発生します。Oracle スキーマの作成には、固有の Oracle ID を使用する必要があります。

ORA-01034: Oracle を利用できません (ORACLE not available)、
ORA-27101: 共用メモリー領域が存在しません (shared memory realm does not exist)

これらのエラーは、Oracle インスタンスが実行されていないことが原因で発生します。ORA-27101 は、SGA サイズなどのデータベース・パラメーターを変更しようとしたことが原因で発生する可能性があります。

ワークスペース・アクセスのトラブルシューティング

ワークスペースの作成場所にしようとしているフォルダーは、チーム・メンバーで共有されなければなりません。ユーザーがワークスペースにアクセスできない場合は、以下のことが原因として考えられます。

- ワークスペースのフォルダーを共有していない。フォルダーを共有してワークスペース・パスを更新してください(ワークベンチ資料セットの「始めに」を参照)。
- ワークスペースの作成後にワークスペースのフォルダーを共有した。ワークスペース・パスを更新してください(ワークベンチ資料セットの「始めに」を参照)。
- フォルダーの「共有名」フィールドの値にスペースが入っている。スペースを除去してワークスペース・パスを更新してください(ワークベンチ資料セットの「始めに」を参照)。